



神戸の詩

ワイン城

西区・押部谷町

PHOTO
MASAO KOBAYASHI



PRODUCED BY KOBE DAIMARU



ランティンティーハウス

神戸市中央区明石町40

旧居留地38番館4階

TEL(078)333-4086

營業時間／11:00AM～9:00PM／水曜定休





蘭亭茶叙

LANTIN TEA HOUSE

ランティンティーハウス／旧居留地38番館4階

中国は東晋(353年)の頃。文人名士が、あずま屋「蘭亭」に集い、気ままに杯を重ね詩を綴り、流れゆく時を楽しんだということです。そんな心豊かなひとときをイメージしたのが「蘭亭茶叙」です。旧居留地の「蘭亭」では、フランス料理の技術、素材の組み合わせを活かした新しい中華料理の世界スーパーシノワーズをご用意しております。食と会話を楽しむ現代のあずま屋としてお楽しみください。



ラビオリ.....700円
(水餃子にたっぷりの野菜を添えました／一皿3コ)



ライスクレープ.....500円
(米の粉のクレープに、鳥肉・野菜を包みました／一皿2本)



ミニ葉飯.....500円
(豚肉と海鮮の2種類があります／一皿2コ)

※表示価格の3%を消費税として別途頂いたします。

●ランチセット1,500円(11:00AM～2:00PM)・ハイティーセット1,200円(2:00PM～5:00PM)もご利用ください。



足立輝代の
ドレミファトーク

世界初の試み シルバーカレッジで 第2の人生にチャレンジ！



「シルバーの方々がキラキラと輝いておられますね」と足立さん。「豊かな人生経験を勉学に生かして頂きたいです」と今井さん。

今井 鎮雄さん
〈神戸市シルバーカレッジ 学長〉

足立 輝代さん
〈声楽家〉

■高齢者の再教育機関「神戸市シルバーカレッジ」が、神戸市北区の総合福祉ゾーン「しあわせの村」に完成し、10月1日、第1回の入学式を迎えました。

足立 学校内をあちこち見学しましたが、とにかく素晴らしい設備ですね。学生さんもシルバーとお呼びするのは申し訳ないくらい澆刺としていらして…。

今井 高齢者のための教育というと定年後の余生を健康にのんびりと過ごすための趣味と捉えられがちですが、ここでの教育はもっと積極的、実用的なものです。若い時に受ける教育は産業社会に出ていくためのトレーニング、準備としての勉強です。



第1回入学式の様子

シルバーカレッジの概要

高齢者の豊富な経験や知識・技能をさらに高め、その成果を社会に還元することをめざして、国際都市・福祉都市にふさわしい学習・ふれあいの場として、整備されています。

◇所在地 神戸市北区しあわせの村

◇対象 市内在住の57才以上

◇定員 1学年420名

◇学習期間 3年

◇設置コース

- ◆福祉コミュニティーコース
- ◆国際協力・交流コース
- ◆生活環境コース
- ◆総合芸術コース



☎ (078) 743 - 8000

(財) こうべ市民福祉振興協会

が第2の人生での勉強は自分のためであり、またこれまでの人生経験があつてこそ得られるものであつてもいい。私はこの学校から大学の先生がびっくりするような論文がでてきてほしいと思つてゐるんですよ。

60歳からでものぼせるものはたくさんあるはず。例えば音楽。ここでは一流の演奏家が来て、もいいようにピアノだつて立派なものをおいています。

足立 まあ、嬉しい！

今井 一流の人を招いて、人間



今井 鉄雄 さん



足立 輝代 さん

というものはここまで可能性を持っているのだということを皆さんに見てもらいたいです。いろんな経験をお持ちの方々に学生として迎えるのですから、全とのことにおいて中途半端なことではできません。

足立 私が指導に当たっているNHK神戸文化センターの唱歌クラスの方でこのシルバーカレッジに入学された方がいらしてとても嬉しそうに報告にいらしてしゃいました。神戸商工会議所のコーラスグループでも殆どの

方がシルバーの年代ですがお歌を歌ってらっしゃる時のお顔は本当に無心でその方の本来持つてらっしゃる一番大切な何かを見せて頂けて私も本当に楽しく一緒にさせて頂いています。

今井 行政にこれだけ立派な建物を造ってもらったのですから、後は私達と学生さん達とでそれに負けないような中身を作っていくかなとね。

足立 年を重ねても知力はあるなにおちるものではないですよ。

今井 確かに記憶力は減りますがその分、理解力や経験が増しますから総合的な能力はむしろ発展していくと思います。

足立 第1期生が卒業をされる3年後が楽しみです。



左 塩澤様と後藤店長
上 カウンセリングルームで

Estée Lauder
GUERLAIN
PARIS

ホテルオークラ神戸店
の
エレガントタイム

■
ゲスト

塩澤 清子様

何もかも忘れてリラックス！

後藤 初めてお会いした時はかなりお疲れの様子でしたが、今日はお肌に透明感があって、見違える様にきれいになりましたね。

塩澤 あの時精神的に落ち込んでいましたので、気分転換にと思ってこちらへ参りました。

後藤 女性にとってエステティックというのは気分的にとってもリフレッシュできる場所ですね。

塩澤 お友達と二人でこちらにきて頂いたのですが、気持ち良くゆっくり休めました。

後藤 トリートメント前と後とではお顔の表情が全然ちがいましたね。ゆっくり休息された後のリフレッシュ感をお顔の表情で感じました。

塩澤 吸い込まれそうな眠りに入りました。

後藤 塩澤様のようにお疲れの方はリンパマッサージが良いですよ。お身体は疲れたまると代謝もにぶくなり、老廃物が多くなりやすくなります。お顔のくすみもそこからくるのですが、ゆっくり休息をとると同時に身体の代謝を促進させることも大切なことです。

塩澤 家事とか主婦の仕事全部忘れる位、何時間か別世界で過ごした感じです。何もかも忘れて

無の空間とでもいいでしょうか、身体全体が何も考えずリラックスできて、とても良かったですね。この次はリンパマッサージをやってみたいですね。

後藤 塩澤様にはストレス解消の場、また、身体の健康作りとして利用して頂きたいと思います。

塩澤 子供の手も離れた時期です、気持ちにも余裕ができて、自分だけの世界が欲しいと思う様になったのです。ここへ来ると年齢を忘れます。足のつま先から髪のお友達に紹介して頂いてほんとうに良かったです。

後藤 ゆっくり休んで頂くことが健康と美につながると思っています。

塩澤 楽しみに来させて頂きたいと思っています。

Estée Lauder
GUERLAIN
PARIS

ホテルオークラ神戸店

神戸市中央区波止場町2-1
メリケンパーク内
ホテルオークラ神戸7F
TEL. (078) 391-7811

●月刊神戸っ子をご覧になってご来店頂いた方にはオデリス発表記念として、グランプリメントチケット2万円分をプレゼント致します。また随時内覧会を開催しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さいませ。
TEL (078) 391-7811

TOMO.S.

これは神戸を愛する人々の雑誌です。
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です。

10月号目次 1993-3-390

- 表紙／故小磯良平シリーズ「千登三子素指」
セカンドカバー／西村 功「ドランクのパンの店」
目次／杉山知子
- 14 神戸っ子93／橋本 恵子
13 11 神戸っ子93／橋本 恵子
14 ある集い／二楽座・兵庫興いけばな協会
17 コウベスナック／アーバンジャズフェスティバル・大天津フエア・橋本 恵子
「描かれた歴史」オーブニング・AIR PLAY・ハーバーランド彫刻展
アートKOBÉ／栗山 茂
- 18 神戸の詩／「ワイン城」小林 政夫
20 私の見／「兵庫・神戸の歴史を歩こう」伊勢田 史郎
31 ポエム・ド・コウベ／「藍」鈴木 漢／絵・石阪 春生
33 随想二題／喜多 洋子・木村 次郎吉
34 れんさいエッセイ／「さようならとバイバイの間」青木 はるみ／絵・杉浦 祐二
36 私と神戸／「神戸とボク」中西 省伍／絵・瀬本 唯人
38 コーヒーブレイク
40 地域文化論／「国際高等研に茶室贈られる」米花 穂
42 ファッション特集①／座談会「神戸ファッションコミュニティを創る」
44 藤本 晴美・内田 繁・三橋 いく代・三好 栄三
52 ファッション特集②／神戸のファッション・メカに聞く
57 ファッション特集③／ジパングファッション文化展
58 ファッション特集④／神戸クリエイション93
59 アーバンリゾートフェア神戸93を終えて／妹尾美智子インタビュー
62 キャンペーン座談会／「竹中邸買設立に向けて」伊勢田史郎・安水穂和・君本昌久
64 ひょうごウォーク／「景観の形成等に関する条例」絵・たかししも
70 ファッションスポット
72 神戸っ子同窓生交歓
79 神戸のお嬢さん／山下みと子・加藤優子
80 シュガーランドを探して。⑦／「思い出のサンセット」白羽 弥仁
100 藤本ハルミの季節の女／「市松モダン」／カメラ・藤原 保之
102 亀井一成のズーム・イン・N・ZOO
112 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳
114 大手前教授のクロスカルチャーエッセイ93⑨ディベート文化」福井 有
118 有馬蔵時記「フォーラム93」時代を結ぶ
119 話題のひろば／「チュ」本部の会
122 話題のひろばII／第17回井橋文化賞表彰式
123 KFSニュース
124 神戸ジャズ70周年
125 神戸を福祉の街に／「用語問題が聞いかけもの」橋本 明
126 モダンカルチャー
128 シネマ試写室／男が女になった四〇〇歳の「オルランド」淀川 長治
130 神戸っ子倶楽部会員情報
132 ぴつとん
134 ポケットジャーナル
140 るばっせい神戸③／「神戸の山里探訪の旅」田辺貴人／カメラ・池田年夫
145 第17回神戸文学賞佳作／「大事」④ 平井 彩花／絵・大橋 良三
149 北野マップ
154 異国でつづる恋歌・源氏物語の／「紅葉賞」国広 節夫・国広 富美子
156 海・船・港／「米田定蔵写真展」カメラ・米田定蔵
168 カメラ／米田定蔵 池田年夫 松原卓也 森田真志 森田純三 藤原保之
米田英男

HARUMI FUJIMOTO



“流れる季節に” 藤本ハルミ作品集

日本の伝統美きものの地を素材にモダンな洋服づくりを25年
積み重ね、今そのライフワークを作品集として処女出版！

■作品集によるファッションパーティ

12月14日（火）P.M. 6：30～9：00
於／新神戸オリエンタルホテル真珠の間
チケット ￥20,000（作品集を含む）

作品集内容／ Part I 月刊神戸っ子連載の作品とエッセイ “季節の女”

Part II 25年間の代表作品とパーティドレス集

Part III 対談／ 田辺聖子・新井満・森美代子

出版と主催／ 月刊神戸っ子 神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F

お問い合わせ TEL 078 (331) 2246 FAX 078 (331) 2795



The
Blazer
shop
MAC

なるほど
ツイードジャケットの風格



MACのお客様 (左より)

福原敏晃さん

ジャケット ￥49,000

ベスト ￥18,000

シャツ ￥9,800

パンツ ￥21,000

村上 治さん

ジャケット ￥46,000

シャツ ￥8,900

パンツ ￥18,000

帽子 ￥9,800

MAC
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC

THE BLAZER SHOP MAC

DOLCE MAC

PLENTY MAC

FESTA MAC

BENETTON MAC

SUNVIOLA MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895

TOR-ROAD 078-391-0896

SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141

SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738

AKASHI FORUS 4F 078-913-8142

TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830

友がいて
笑顔が輝く
キャンパスライフ

平成6年度 学生募集要項

神戸女子大学

文学部 500名
家政学部 200名

学科名	試験科目
文学部	●英語Ⅰ・Ⅱ ●国語Ⅰ・Ⅱ
史学科	●英語Ⅰ・Ⅱ ●国語Ⅰ・Ⅱ、日本史の中から1科目選択
教育学部	●英語Ⅰ・Ⅱ
家政学部	●国語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ、生物、化学、物理から1科目選択
管理栄養士	

※国語Ⅰ・Ⅱは漢文を除く

入試	出願期間	試験日
推薦	10.18~10.27	11.3(祝) 全学部
一般	1.5~1.14	1.22(土) 文学・史学 1.23(日) 教育・家政

●特典その他

教員免許状(幼1・小1・中1・高1)
栄養士免許証・管理栄養士登録証
〒654 神戸市須磨区東須磨青山2の1
(須磨離宮公園の北接)
TEL(078)731-4416

神戸女子短期大学

服装科 150名
家政科 500名
初等教育科 80名

試験科目
●英語Ⅰ・Ⅱ
●国語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ、生物、物理、化学の中から1科目選択

※国語Ⅰ・Ⅱは漢文を除く

入試	出願期間	試験日
推薦	10.14~10.28	11.4(木) 全学科
一般	1.8~1.20	1.24(月) 家政科(栄養士・一般) 1.25(火) 服装・初等教育

●特典その他

教員免許状(幼2・小2・中2)
栄養士免許証
〒650 神戸市中央区港島中町4-7-2
(三宮駅よりポートライナー「市民病院前」下車徒歩5分)
TEL(078)303-4700

神戸女子大学瀬戸短期大学

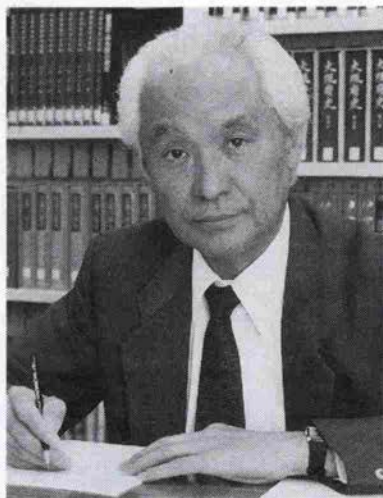
〒709-08 岡山県赤松郡瀬戸町観音寺721
TEL(08695)2-3121

□私の意見

兵庫・神戸の 歴史を歩こう

伊勢田 史郎

△詩人・神戸芸術文化会議議長▽



東京在住の友人Kが、たまたま大阪に所用があつてやつて来て、電話をかけてきた。そこで一夕、宝石をちりばめたような神戸の夜景を眺めながら杯を重ねることになった。ところは諏訪山金星台のトゥール・ドゥールというフランス料理店。Kはもともと神戸生まれである。歯切れのいい東京弁が、だんだん関西風になってくる。

「やっぱり神戸はセンスのええ町やなあ……」

「あかぬけしてて、街並には異国情緒がたどつてゐるわ。いいさんから犬まで、もちろんギャルも、モダンや……」

「そやけど、ここには京都みたいな歴史がないから……」神戸南部の兵庫運河周辺はKや私などのホーム・グラウンドであつた。時宗開祖・一遍上人終焉の地である真光寺の境内の鬱蒼とした樟の森には、空気銃でよくスズメやツグミを撃ちに行つた。近くには、兵庫大仏で有名な最澄や清盛ゆかりの能福寺があり、後醍醐天皇の行在所であつた福嚴寺、行基開創の葉仙寺や弘安九年（一二八六）の紀年銘がある清盛塚十三重塔など、史蹟に事欠かない。

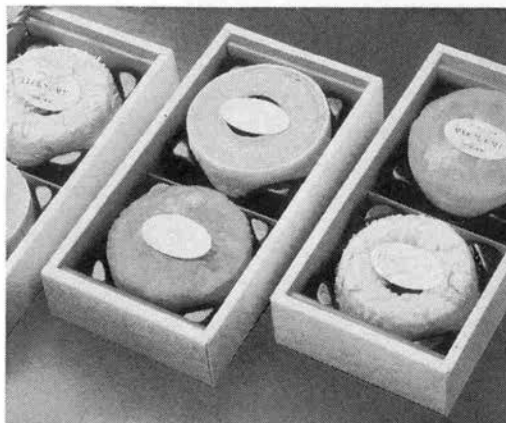
「浜清み浦うるはしみ神代より千船の泊つる大和田の浜」「おい、こんな歌、知つとつか……」

と、私はKに聞いてみた。『万葉集』に集録されている田辺福麻呂の歌である。神戸市の根元の地点ともいふべき兵庫区の南部地域は昭和二十年三月十七日の大空襲で壊滅、「モダンでセンスのええ町」神戸のなかで、いまもって、ぽっかり空いた洞穴のように、その繁栄から取り残されている。だが、ここは奈良時代から摂播五泊の一つとして重要な港であつた大輪田の泊を抱えていた地である。清盛が築造し、重源が改修し、宋・明貿易で潤つた兵庫関であり、近世では兵庫津と呼ばれ、寄港する多数の船舶で殷賑をきわめた所でもある。

翌日、忙しいKを伴つて私は懐かしい「兵庫の津の道」を歩いた。

「自分が生まれ、そして育てられた町を、改めて知つた」と、彼はそう言つて東京に帰つていったが……

お慶びを伝えるお二人のシルエット
ペアスタイルの贈りもの。



- ペアケーキ (A)
＜クラウンケーキ・バウムクーヘン＞
- ペアケーキ (B)
＜バウムクーヘン・アーモンドケーキ＞
- ペアケーキ (C)
＜クラウンケーキ・アーモンドケーキ＞

いずれも 1,500 円



株式
会社

本 社 〒651-21 神戸市西区北別府2-4-2
TEL.(078)974-9756 FAX(078)974-9758
大阪営業所 〒558 大阪市住吉区苅田町7丁目12-19
TEL.(06)697-9435 FAX(06)697-4188

東 京・名 古 屋・大 阪・神 戸

北 欧 の 銘 菓

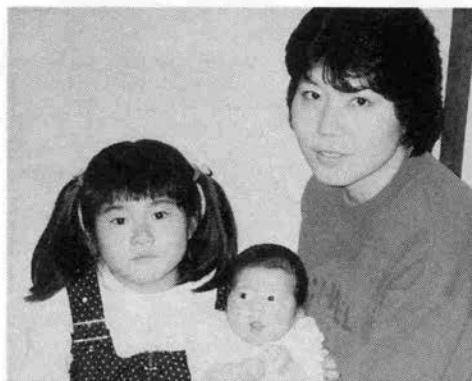
2-HIM CONFECTION



SAMOTO CLINIC



ママといっしょに



赤ちゃん: 本多 莉ちゃん (平成5年1月12日生まれ)

マ マ: 千賀子さん

「やさしくて可憐な

花のような人になって下さい」

★ 佐本産科・婦人科 ★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通 4-1-15
☎078-575-1024 (病室 ☎078-576-9639)
市バス上沢 4 停南スグ

● 駐車場完備 ●

藍

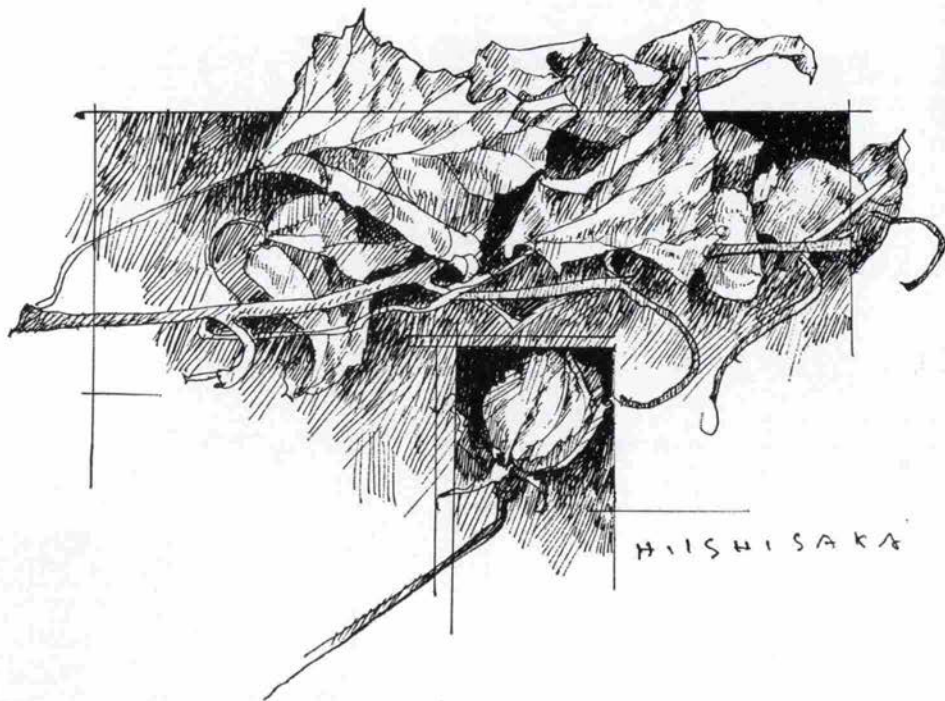
鈴木 漠

絵／石阪 春生

雲間から差す日の光が
街と港のたたずまいを
人々の日々の思いを
縞模様染め上げる

沖はいちだんと輝いて
その藍色を濃くするだろう
扇のように 港は
開かれたり閉じられたり
そのたびに賑わしく
船が出入りする

たぶん街は衣裳なのだ
祭の日の晴れ着や
くつろいだ午後のふだん着
移り変わる心に合わせて
人々は
街の風景を着るのだ



随想 二題

コッソット先生に
レッスンを受けて

喜多洋子

〈アトリエ・ヨー
コ熟女塾事務局〉



アモーレ（愛）カンターレ（唄）
マンチャレ（食）イタリヤを象
徴するこの言葉、行ってみたくい夢
をもちつづけていた。

世界的メゾソプラノ歌手コッソ
ット先生が夏にイタリヤの自宅で
レッスンをするので参加したらと
いうハナシが舞いこんだ。ピバノ
あこがれのイタリー、特別レッス
ン、オペラ、イタリーの三色国旗
が頭の中ではためいた。日頃松本
幸三先生に御指導頂き、オペラの
アリアなど好きでお勉強をしては
いるけれど、でも、音楽学校を出
ていないド素人を？高い声が出に
くいオバサンを？「いいのです。
日本の素人で、主婦で勉強してい

る方々を教えたのです」とおっ
しゃっている聞いて熟女塾から
七名参加した。

ミラノから少しはなれた湖のほ
とりにホテルがあり、そこから歩
いて十分、先生の大邸宅はオリ
ヴの木が繁り花が咲き乱れてい
た。室内の装飾は重厚をきわめ、
かけられている画は何世紀も前の
ものと聞いた。すばらしい環境の
中で発声から口の開け方、初歩か
らアリアまで御主人のテノール歌
手ヴィンコ先生と二人で喧嘩しな
がら（早口のイタリー語はその様
に聞こえる）熱心に教えて頂いた。
翌日私とU嬢はもう一度レッスンを
受けることが出来、幸せいつば
い、ホテルに帰ってテープをまわ
してみたら、何も入ってなくてが
っかり、もう一度時間がほしい。

野外円型劇場のオペラを三回。
ミラノやヴェネチアに行った。鳩
と遊びゴンドラに乗った。後の舟
から松本先生が唄えとおっしゃ
る。エイノママヨ、旅は恥のかき
すてとオ、ソレミオを唄った。せ
まい海路と両壁の反響が良かった
のかコッソット先生の御指導のせ
いか、不思議なほど高い声が楽々
と出て自分でもびっくり、まるで
ブリマの気分。窓からおばさんが
顔を出し行きかう舟や船頭さんも
拍手して、もつと唄えと手まねす
る。サンタルチア、アルデラ、イタ

リー語で
うたえる
歌をこの
際皆唄っ
た。こん
な気分の
良かった
ことはな
かった。

星食は
サンサン
と輝く太

陽のもと、湖畔にずらりと並んだ
各レストランの大きな日よけ傘の
下で。色や柄で行きつけのレストラン
がわかる。湖をわたる涼風に
ふかれながらいのりの種類のス
パは山もり。ホークでくるくると
巻いてお口にポイ。ピザは直径四
十糎はあるうか、毎日お腹一杯食
べた。おいしくてあきない。持参し
た日本食をすっかり忘れていた。
アモーレの方はやっぱりダメ。
男縁がないんだ。男前のすてき
な男性ばかりで、すぐ声をかける
のも挨拶がわりであたり前。その
時はこちらも「チャオ」と言うの
だと聞かされていたが、遂にその
時はなかった。

アツという間に時はすぎて、最
後の夜は両先生がおいでになりチ
ンチン、サルーテ、盃をあげ頬と
頬を合わせ別れを惜しんだ。アル
ヴェデルチ。



生田は文化、芸術の森

木村次郎吉

〈元産経新聞神戸支局カメラマン〉



去る八月、生田神社会館での私の個展「生田の森の四季」、多数ご来場頂き、有難うございました。

昭和30年春、名古屋中部総局に入社。伊勢湾台風（昭和34年）大水害に自分の家は床上浸水、しかしそんなことを気にしては報道カメラマンではない。『家族の辛さ、自分の苦しみを紙面で訴えるのがジャーナリスト』、入社時先輩諸氏から耳に穴が開くほど聞かされており、その旨、母に説得するのにも目が潤む。

昭和36年、大阪写真部に転勤、名刺に写真部員と明記されているが、一年生の仕事は出張帰りのお土産として、多量のフィルム、暗室で太陽を見ない日が再々。スポー



焼夷弾によって大きくえぐられた
神木クスノキ

ツ班となり、東京オリンピックでは「鬼の大松」回転レシープで金メダルのパレールボール担当として大きな歴史をスクラップに記録。昭和51年2月、神戸支局勤務で住まいも西宮から神戸に移す。

県政写真の責任を。新聞みな同じ真四角な写真では、と『産経』の特色を創るような「小学生が幼い手つきで、ぬるぬるの田に足をつけての田植風景」を変型サイズ横長（今のパノラマ）で出稿、翌日の新聞が待ち遠しかった。上手な整理で巻頭となる。

企画「神戸の女、登場」行吉哉女神戸女子大学学長、新谷英子彫刻家、実業家、デザイナー、領事館夫人、コンパニオンを9年4カ月約三百人の女性を撮り続け、一躍女性専門カメラマンだと好評。

昭和56年に写真家・故ハナヤ勘兵衛氏と合同写真展（芦屋で）、風見鶏の館で「国際都市神戸で活躍する女性」を発表。各社同時取材の時はニュース面も各社縦長で、

自社の分は後回しで取材中に構図を。

高校野球県大会決勝では9人各ボジション、両チーム合わせて18人、誰かンスべて自分で撮り飾った時、他紙と比べ、自己満足のフアイト

があった。O型人間。

ニュースのない時は、生田さんに。現職時から親しくしてもらっていた生田神社加藤隆久宮司から「次郎ちゃん、今何してる…」にカメラマンは動く物を撮っての生甲斐。物を言わぬ商品ではダメネ。「生田神社専属カメラマンになれ」と有難い言葉。根っからの写真好きで、ジット座っておれない男。女房が「休み？…どこに？」「生田さん」。また生田祭、音楽、文化に生田の森ステージは絶好の被写体が特に今年になって、生田に足を伸ばすこと多々。新緑の映えるある日、宮司から「森の中に一度入ったら…」と。ヤブ蚊、毛虫の幼虫、くもの巣の中で3時間、よく堪えた。第二次大戦末期の大空襲で、焼夷弾によって大きくえぐられた「神木クスノキ」が48年たった今も黒く焦げている現状に、戦争を知らない現代っ子に恐れ戦争を二度と起こさせないよう、祈る体験者の一人。

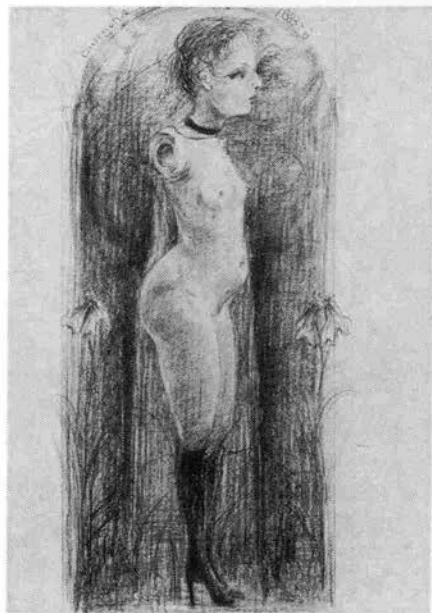
秋の月、荒城の月を松本幸三氏が生田の森の月に歌う観月祭。また、アメリカン・フレイヴアリットコンサートが加藤宮司の合図で開催。日程をメモする横で「お爺ちゃん、カメラマンと一緒に死ぬ！」と孫が笑う。今後も皆様のお力添えをよろしくお願いします。

□連載エッセイ

さようならと バイバイの間

青木はるみ 〈詩人〉

絵・杉浦祐二



な家と違って私の好奇心が大いに刺激されるのだ。

つい先ごろも、私の所属する同人誌の合評会に出るために、近鉄電車、JR、阪急と乗りついでいる間、ふたつ面白いことに出会った。合評会の会場は阪急六甲で降りて、六甲登山口の方へゆるやかな坂を上がっていく途中にある。西宮北口までは特急で行き、そこからは普通に乗りかえる。

その、いささか長い道程を、どういうものかずっと一緒だった若いカップルがあった。偶然とはいえ、乗りかえるたび同じ車輦に位置し、しかも、いかにも幸せいっぱいの仕草のひとつひとつが嫌でも私の網膜に焼き付いたというわけ。ともかく若い男性は乗りかえるたび、じつに素早く自分のクラッチバッグを網棚にあげ、それから女性のハンドバッグを受け取って網棚に並べる。更に女

電車のドアが閉まると、プラットフォームに残った六、七人の女高生がいっせいに手を振った。電車に乗りこんだ三人の女高生もバイバイとにぎやかに声をあげる。よく見かける光景なのだが、最近の女の子はみんな両手のひらを外側へぱっと開き胸のところでヒラヒラさせるスタイル。揃うと、けっこう華やか。何て可愛いのだろうと見とれてしまう。

考えてみれば、バイバイという言葉はあまり品がよくないし、幼稚でさえある。さようならという美しい言葉を、そういえば私自身も使わなくなっていることに気付く。さようなら、なんていうのは大げさな劇的シーンに使うものと誰しも思っているようである。女の子たちの場合はジェスチャーの可愛らしさが先行するので、言葉のひびきは気にならない。ともかく電車のなかでは、単調

性の上着を「暑くない？」と訊いてから脱がすの手伝い、きちんと袖だたみをして網棚に収納したのだ。収納というのは変だが、あまりも細やかな動作なので、そんな感じがしたのである。更に女性が丸めて持っていたリーフレットまで「それも」とうながして網棚にあげてしまったのだ。男性は右腕でしっかり吊り皮をつかみ、女性の腕を自分の左腕につかまらせた。女性はといえば、どんなに電車が停まるたびにぐらぐらしても、決して自分では吊り皮を持たないのである。

乗りがえた車輛によっては席が空いていて座ることもあったが、網棚にあげる手順は同じ。女性の手を膝にひきよせて置き、自分の足のひらで包む。女性は首をかたむけ男性の肩にもたれこんでいる。

このカップルが座っているときには私も向きあった席に座っていたので、だんだん私のほうが意識過剰になってしまい、困ったあげく目をつむって眠ったふりをするにしてみた。眠ったふりをしていただけなので、次々に色々なことが思いうかんでくる。私の新婚時代など夫ときたら、山道でさえ勝手に凄いいスピードで歩いて行ってしまったものだ。私は私で、目の前の若い女性のように、夫の肩にもたれて甘えるということもなかったのだと思い、脈絡もなく時間が飛んで、最近開かれた詩集出版記念会のあとの友人たちとの雑談を思い出したりした。そのときはアルコールがまわって、話題が恋愛論めいたものに流れていたのだ。

「それにしても」と私はいった。

「好きなんでしょ。ほんとに愛していたんでしょ。」

その二人がなぜ別れるようになるのかしらねえ」と我ながら陳腐な問いかけをしてしまったのだ。とたん、みんなに大笑いされてしまったのはいうまでもない。「青木さんって、まるで収穫前みたいなことをいうんだな」とあきれたらりして赤面したものである。私は恋愛論が苦手。なにしろ最初のお見合い相手とあっさり結婚したというコンプレックスがある。

コンプレックスまで溯ったとき、ふっと佳い香りがただよってきた。目をあげると、隣席に座っている老婦人の膝の紙包みから、不思議な形のものが先端を覗かせている。「いい匂いでしょ」とその人が話しかけ、紙包みを開いてくださる。つる性の木の枝に淡緑の果実がたわわに吊りさがっていて、キーウィなのであった。まだ小ぶりなので、一見、キーウィとはわからなかったのだ。どんな花ですとたずねると「リンゴの花のようですね。雌の木と雄の木を揃えて植えてあげないと……」と続け、ほほほと美しい素敵な笑顔がこぼれた。おそらくシルク地であろうと思われる上品な紺のワンピース姿。同じ質感の紺のパンプスに、それこそリンゴの花のような飾りが効いている。

その人が芦屋川で立ちあがり降りるとき、思わず私も立ちあがり「ごめんくださいませ」といってお辞儀をした。こんなエレガントな挨拶するのは、相手の趣味の良さにつられたとはいえ自分でも気持のいいことである。けれども、こういう場合はやはり「ありがとうございました」というべきだったかもしれない。

□随想□ 私と神戸

神戸とボク

中西 省伍（神戸ファッションクリエーターズ代表）

絵／灘本 唯人

神戸っ子はシャイでちょっぴりオッチョコチョイ。

オシャレな街というイメージを持ちながら、これ見よがしのギンギンファッションにはめったにお目にかかりません。

何がなんでも目立ちゃいい、わけがわからなくても流行りものを着たらいい、といった近くの大都市の女性方とは一味違うんですね。

昔、ミナトだったという事実が早くから西欧文化を吸収、ファッションにおいてもセンスと見識を養ってきたからだと思う。従っていくら世の中がファッション化され、幾多のメディアから情報が流れてきても、そんな戦略に簡単には乗っからないし、又乗せられることにシャイムを感じているからでしょう。

そんな神戸に生まれ、神戸で育ち、神戸で仕事を続けてきたボクにとって、今年はずっと忙し

い。世の中不景気ムードの今、「メチャ忙しい」なんて言うのは何かカッコつけてるようで面映いんですが…。（これもシャイ？）

今年の神戸は「アーバンリゾートフェア'93」なるタイトルで、豊かで生き甲斐のある街、そして一度は来てみたい街へ向かって各種イベントを展開してきたことは皆様よく御承知のとおり。市民参加型のフェアにしたい市当局の意向で、すべての企画に市民が参画、プランニングから運営等々汗を流したものだ。

そんな数多いイベントのうち、

「街かど写真コンテスト」

「シルバー合唱コンクール」

「神戸ファッションデザインコンテスト」の審査員をおおせつかったところに

「神戸映画大賞'93」などビッグイベントの実行委員長を引受けるとの申し入れ。これにはさしものボクも即答できず、先輩・友人に相談もし、女房・娘にも話した結果、今まで神戸で生きてきた義理と恩返し（古いなあ）に、日本で初めてというショートフィルム・コンペティションに興味を感じ（これがオッチョコチョイ？）OKしたのですが、これは大変な仕事でした。

全世界の若手映画作家に呼びかけたところ、集



まるわ集まるわ、41カ国・633本のエンタリーがあり、スタッフ一同嬉しい悲鳴をあげたもの…。天もこの努力に感じてか、審査委員長にお願いした中国のチェン・カイコー監督がタイミング良く映画祭直前にカンヌでグランプリ受賞。箔と華をつけていただき、大いに意気が上がりましたっけ。

盛況好評裏に終わったこの映画祭は、ボクの人生に大きなモニュメントを築いてくれました。ホッとする間もなく、今度は「市立カメラ博物館」設立にひと役買えというはなし。

かねてから「神戸にカメラ博物館を！」と、書いたり言ったりしていたら急に具体化、阪急御影駅南側の新築ビル2F（約400坪）を用意していただき、年内にオープンしろとの御下命でこれまた大変な仕事！。

折角やるからには、何処にもないユニークな「さすが神戸やナ」と言われるようなミュージアムにしよう、日夜関係スタッフと奮闘中の今日此頃。陳列カメラも戦後日本カメラ勃興期に重点（既存の博物館の盲点でもあり、世界のカメラ界が興味・注目している）を置き、それに付随してギャラリー・ミニスタジオをも併設、誰もが楽しい博物館にするつもり。

本職のファッションでは、県下の地場産業（豊岡カバン・西脇綿織物・丹波ちりめん・姫路皮革・志方靴下・長田ケミカルシューズ・神戸帽子）の御協力を得、共通のコンセプト・テーマで足並み揃えて商品化、これぞ本来の「トータルファッション」と言えるものをテストケースとして発表（本邦初？）しよう、K・F・C（神戸ファッションクリエーターズ）のメムバーで進行中なんです。

人間の一生、いろんな巡り合わせがあるのでしようネ。ボクにとってここ数年はヘビー・デュティ・イヤーズですが、これも神戸っ子気質がなせるワザとして頑張るっきやない！。



ハ中西省伍氏のプロフィール

日本デザイン文化協会理事、トア・ロード山手会・会長を務めながら、大阪モード学園・大阪女子学園短大・成安女子短大で教鞭をとる。また、関西TVファックは無用「の愛身コーナー」ではコーディネートを担当、多方面で活躍中。